



停電

ストーブ・エアコンが使用できず「暖」の確保ができない。介護用ベッドがギャジアップされたままであり、高さも変えることができない。腰痛など介護者様の介護疲れが顕著に。エアマットの空気が抜けてしまった。体位変換機能も動かない。(身体が硬くなった。身体が痛い。)などの声が聞かれた。在宅酸素機器が使用できず携帯用ポンペに切り替えた。電動吸引器に変わる物がなく、痰吸引ができない。呼吸器が使用できない。

物流 (生活必需品の枯渇)

食事・オムツ・衣類・医薬品・救援物資・配送

高速道路・幹線道路の麻痺、物流拠点(店舗)の被災・燃料不足などにより様々な商品の配送が滞った。

お店が開いていないため、必要な物資を買うことができない。食糧の備蓄をしていない。「とろみ材」や「介護食」が手に入らない。

病院・施設・避難所などからもオムツなどのご注文をいただいたが、商品の在庫不足と入荷が未定のため必要な物資が配達してもらえない。

全国各地の有志の方々から救援物資を送っていただいた。医療機関・居宅介護支援事業所・社会福祉協議会・避難所等に必要としている方への配布を依頼した。

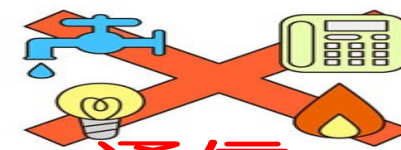
3.11...あの日...あの時...

断水

飲料水の確保が大変。トイレが流せない。入浴できない。清拭ができない。独居や老夫婦世帯は配給場所に行くのが大変。掃除・洗濯・排水用の水を川に歩いて汲みにいった。

ガス

煮炊きが出来ず、調理ができない。入浴ができない。清拭ができない。



通信

電話(携帯電話) インターネット 新聞・TV・ラジオ 行政情報

119番通報したくても固定電話の使用ができない。携帯電話の回線が混雑し繋がりにくい。パソコン機器・FAXなどが使えずお客様、他事業所様の情報が分からない。また伝達できない。相談したくても、電話が使えないので連絡が取れない。通常行っているインターネットでの仕入れなどができない。情報収集できる機材がラジオ・携帯電話のみだったため、現況が分からない。市や町の避難所情報や支援物資配布等の情報が公的な所に行かないと分からない。営業しているお店がどこなのか分からない。

医療

医療機関・調剤薬局・一般のドラッグストア等も被災しており、受診・薬の処方を受けることが出来ない。往診が出来ない状況だった。処方薬がなくなった。エンシュアリキッド・ラコールなどの経管栄養材などの処方がうけられなくなった。パットやオムツの取替え回数の減少により不衛生な状態に陥った。



燃料の枯渇

ガソリンがなく、移動ができずまた必要な物資を調達することができない。何時間もガソリンスタンドの行列に並んだ。

【震災時の事例】

Aさんの事例...

寝たきりで、吸引機、エアマットが使えずに肺炎や褥創のリスクが高いお客様の所へ訪問へ行った。しかし、さらに状況は悪く地震前から数えて1週間以上便が出ていない状況だった。バケツをかり、全身状態をチェックし、摘便を行い経過観察を行なった。電源が回復するまで肺炎等を防ぐことが出来た。

Bさんの事例...

下肢が不自由なお客様と腰痛持ちの奥様。3週間ほど断水が続く奥様が1日何度も給水所まで通い体も心も疲れきっていた。

Cさんの事例...

震災から一週間が経過した日の事。お客様より一本の電話があり、「痰がうまくとれない」との内容であった。電気が復旧していない中で私どもは当社の吸引機の貸し出しを行うことに。平時なら車で行く距離ではあったが極度のガソリン不足。しかし迷いはなかった。リュックに吸引機と数本の吸引チューブを入れ自転車のペダルをこぎ始め、ガソリンスタンドの長蛇の列を横目に走り始めた。所々に見られる道路の亀裂、陥没。これが震災による現実であることを思い知らされながら前へ進んだ。長い坂道を登りきりお客様のお宅に到着する頃には息もあがり大腿部はプルプル震えていたがこんな状況の中でも看護師としての責務を果たせた事、またなによりもご家族様より労いのお言葉を頂けたことが何にも変えがたい出来事だった。

Dさんの事例...

震災当日、ご主人は仕事で帰ってこれず知的障害をお持ちの息子さんと2人で過ごされた。頼れる人がいないため不安が大きく数日間避難所へ泊まっていたがDさんは自力での寝起きが出来ないため椅子に座って寝ており、身体中が痛くなってしまった。ガスが1ヶ月以上も止まり、入浴もできず清拭や知人の家でシャワーを借りて過ごしていた。

Eさんの事例...

嚙下障害のある方。停電によりミキサーが使用できなくなり食べられるものが無くなった。栄養摂取にとても苦労した。断水期間が長く水分摂取が不十分であったためか訪問時に熱発し尿路感染症に。ガスは出ていたが、訪問入浴サービスの事業所が津波被害にあったため機能せず、ご家族が清拭をおこなって保清をしていた。さらに、往診も1ヶ月以上来れない状況で薬が無くなってしまった。

Fさんの事例...

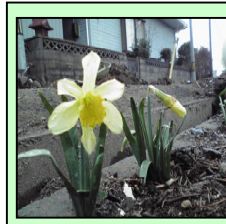
通所事業再開、来所された方々の話し「余震が怖くて外に出れない」「不安で寝れない」・・・必要だったのはリハビリではなく、癒しの空間とコミュニティーだった。友人との再会が、ようやく一息つくことができた瞬間のようでした。今振り返ると、ただ場所を提供することだけが唯一、お役に立てたことかもしれません。

Gさんの事例...

避難所では、狭い空間に人がぎっしり。床から立ち上げれない為、椅子に座って休んでいると、足下にゴロン、ゴロンと横になっていく。歩くのが不自由だから、踏んでしまうかもしれない・・・。トイレを我慢して、一昼夜。気がつくと、病院のベッドの上だったそうです。今は、元気に通所に来ていただいています。

一緒にこれからを考えていきませんか？ お困りの方がいらっしゃいましたらお声がけください。

これ以上の犠牲を生まないために…
危機に対し落ち着いて行動するために…
お客様が安心して過ごせるために…
私たちのできることを果たすために…
地域の皆様のお役に立てられるように…



4月8日
岩沼市で撮影
(水仙)
ハドロで
大変だったにも
関わらず、
元気に咲いています。

1. 今後の災害時の対応に向けたデータ集積

地震直後より、最低限必要な情報を1枚の用紙に集約した【緊急時評価表】を作成。さらに【緊急時行動マニュアル】も作成し、速やかに利用者様の身体の状態・住環境・ライフラインの状態がチェックできました。

上記の経験を活かし、【被災時安否確認レベル】・【災害ニーズ評価表】を新たに作成しました。これらにより、今回の震災におけるデータの集計・分析を実施し、これからの災害時に混乱することなく、迅速に適切な行動がとれるようになっております。

2. 看護部・リハビリ部を統合

フォレスト福祉用具貸与事業所との連携が常に取れる組織体制

お客様をはじめ、より多くの地域の皆様と情報交換や相談が、いつでも気軽に出来るように事業所内の組織体制を変更いたしました。

今回リハビリをご利用のお客様で「脱水・低栄養・褥瘡」などのリスクのあるお客様には看護師との同行訪問を実施しました。医療処置が必要と思われるお客様に関しては、ご本人・ご家族様・ケアマネジャー様・主治医の許可を頂き看護師の訪問に切り替えました。

また、褥瘡のリスクのあるお客様には適宜、耐圧分散機能を持つマットレスへの交換・その他、福祉用具の臨時の提供や介護用品・オムツの配達販売も行いました。

当ステーションでは看護・リハビリ・福祉用具との連携を密にとり、これからも適切なサービスをご提供できるよう致します。

3. 福祉用具貸与事業所の新たな活動

発電機や手動吸引機を用意したことはもちろん、フォレストスタッフは一丸となり福祉用具の復旧にも迅速に対応いたします。

《停電時対応》

電動ベッドの対応：緊急対応方法として、ベッド固定用ピンの解除を訪問スタッフと同行し行ってまいります。また、弊社では【インバーター内蔵式発電機】をご用意いたし、停電により動かなくなった背あげ機能を発電機を使用してフラットな状態にいたします。

*電圧変動に神経質な精密機器にも、安心してご使用できる発電機です。

電動エアマットへの対応：マット内の空気が抜ける前に耐圧分散機能を持つ特殊素材のマットレスへの変更をいたします。

吸引器への対応：弊社では2機種を試し、一般的な足踏み式が体重の軽い介護者様では操作困難な事がわかりました。そのため弊社では、手で吸引の調整・確認ができる【手動式吸引機】を推奨・ご用意させていただきました。

発電機の有効活用：様々な電気機器の【緊急対応用外部電源】として活用してまいります。

《生活用品の備蓄》

排泄用品：【オムツ・パッド】は2週間分以上の【備蓄】を致しました。

嚥下困難な方の水分補給と介護食：水分と栄養補給も重要。水道が復旧されていないお客様には飲料水と栄養補助食品もご提供致しました。また、救援物資として届いた【ジェルタイプ飲料水・ゼリー食・介護食】もお渡しすることが出来ました。

これらをもとに今後も必要な商品をご用意してまいります。

その他：ゴム手袋・お尻ふき・ウェットテッシュ・ドライシャンプーなど、災害時に役立つ商品もご用意いたしております。

様々な商品の安定した【入荷】と十分な【備蓄】がございます。



フォレスト通信 震災特別号



震災直後の活動から確かな明日に向けて

～震災直後…安否確認にひたすら取り組む～

震災直後の混乱の中、暗中模索で私たちは活動を始めました。全職員の安否確認がとれ、自宅が津波の被害を受けた職員や避難所に避難していた職員などいる中、集合できる職員は岩切事務所に集合し、お客様の安否確認を開始し始めました。電話が繋がらない状況のため、動ける職員総出で一軒一軒お客様宅を訪問し再会を喜びながら安否確認を実施していきました。

～見えてきたこと…そして動いたこと…～

安否確認が進むにつれ、褥瘡の悪化に至っているお客様が散見されるようになりました。これは看護のお客様のみならず、訪問看護7-（リハビリ）・福祉用具をご利用のお客様でも同様のことでした。後の考察では停電によるエアマットの不使用、食事の内容・水分摂取量など環境の変化に伴うことが関与していると思われました。そこで私たちは会社全体で緊急時評価表を作成し、リハビリ・福祉用具のみのお客様に関しても看護師が同行しスクリーニングを実施し褥瘡が悪化した場合などは早急に看護師の訪問に切り替えさせて頂きました。このような活動をしていくなかで、今まで以上に社員全体の連携が自然ととれるようになっていくことに気づきました。

加えてフォレスト全体が連携し活動する中で、通常のサービス提供エリア外からもご相談をいただくこともあり、緊急対応として訪問させて頂きました。

また、リハビリに関していえば、このような未曾有の災害の直後で「サービス再開を希望される利用者様は少ないのではないかと…」と思っておりましたが、訪問・通所ともに7割以上のお客様が3月末には再開となり、私達が思っていた以上に必要とされていた事に感激いたしました。

まだまだ、多くの方々には避難生活をしております。知人宅・避難所・仮設住宅・他の地域へ転居等など…担当させていただいている方も、遠く離れたところにお住まいになりました。お話しをすると『家の近所はどうなっている？ スーパーやってる？ さん元気？』とご質問されます。住み慣れた地域に『戻りたい・生活したい』というお気持ちが強く伝わってまいります。

～確かな明日に向けて！！～

このように震災の中で試行錯誤しながら私たちは、今まで以上に各専門職との連携融合を強めることができました。そして、今後の災害に備えるべく、当ステーション・通所介護事業所では【緊急時行動マニュアル・被災時安否確認レベル・災害ニーズ評価表】を新たに作成し災害時には今回のように混乱することなく迅速に適切な行動がとれるようにしています。日々、活動は進行中です。

『確かな明日作戦』実行中!!



(有)在宅支援チームフォレスト

仙台市宮城野区岩切字谷地15-1
TEL022-396-0030 FAX022-255-1161

<http://www.team-forest.net/>

仙台 在宅支援 検索 ブログ更新中!!

サテライトケアセンター仙塩居宅介護支援事業所

TEL022-346-8200 FAX022-346-8201

サテライトケアセンター仙台東居宅介護支援事業所

TEL022-288-3370 FAX 022-288-3371